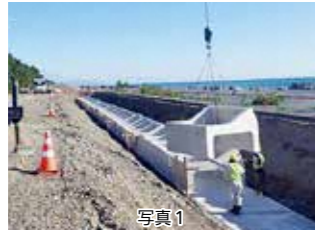


海岸への対策 潮風グリーンウォーク

問合せ 河川課 TEL:626-1118 FAX:626-9416

工事の進捗状況

国土交通省の「粘り強い海岸堤防」の整備により、堤防のコンクリートを厚く改良する工事が行われ、320mの整備が完了しました。(写真1)



その後、堤防の背後200m区間において、市の工事により、盛土と植樹を行いました。(写真2)



(平成30年12月現在)

潮風グリーンウォーク苗木育成

～潮風グリーンウォークに植樹するため、苗木の育成を行っています～

種子採取

海岸沿いに自生している、潮風に強い種を採取します。



ティスカバリーパーク付近

育苗

田尻地内の育苗施設で毎日水遣りし、苗木を育てています。



焼津漁港の対策 防波堤の改良等

問合せ 漁港振興課 TEL:626-1192 FAX:626-2194



静岡県では、焼津漁港背後地の人命・財産を津波から守るための対策はもとより、さらには漁業・水産業の継続性を確保して経済被害を回避するための対策として、胸壁の整備と港口水門の整備に向けた検討を並行して進めています。

また、焼津漁港の沖にある防波堤の改良工事や津波緊急退避施設の嵩上げ等についても進めています。



事業概要

「最大クラスの津波」や「高潮」から被害を軽減させるため、焼津漁港から大井川港にかけて堤防を粘り強い構造に改良した後、堤防陸側に盛土と植栽による「潮風グリーンウォーク」の整備を進めています。

経緯

国の直轄海岸である駿河海岸において、最大クラスの地震・津波に対する被害の軽減を図るため、国、県、関係市町において、「駿河海岸整備検討会」を設置し、海岸保全のあり方について検討してきました。

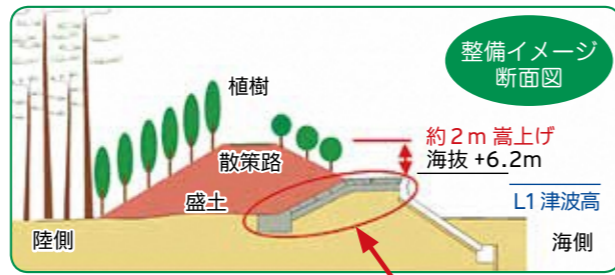
焼津市の直轄海岸の堤防高は、二級河川焼津川に境に北側は海拔8.2m、南側は海拔6.2mに分かれていることから、南側区間についても、盛土により北側の堤防と同程度の高さに整備することで、

最大クラスの地震・津波に対する減災対策はもとより、台風時等の高波による越波対策にもつながります。

整備効果

粘り強い構造に改良した海岸堤防の陸側に盛土、植樹を行い、天端を散策路とするものです。レベル1の津波は既設の堤防で防護できますが、万一堤防を超える高さの津波が襲来した場合でも、津波の勢いを弱めて内陸への到達時間を遅らせ、住民の避難時間を確保するとともに、浸水面積を減らす効果があります。

また、コンクリートだけの堤防と違い、景観や自然環境に配慮し、天端を散策路とすることで、普段から市民の皆様が親しんでいただける施設となります。



堤防を粘り強い構造に改良(国)

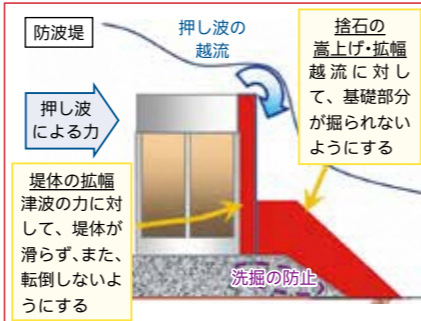
防波堤の粘り強い構造への改良

平成27年度より防波堤の基礎部分の洗掘を防ぐため設置するコンクリートブロックの製作に着手し、平成29年度からは外港南防波堤への設置工事を始めています。



コンクリートブロック設置状況 (写真提供: 静岡県焼津漁港管理事務所)

粘り強い構造の一般図(イメージ図)



出典: 東日本大震災を踏まえた漁港施設の地震・津波対策の基本的な考え方 (水産庁)

津波緊急退避施設の嵩上げ

静岡県第4次地震被害想定レベル2津波の高さを考慮して、焼津漁港内にある4基の津波緊急退避施設を嵩上げします。

平成30年9月には、焼津外港地区にある施設が完成し、平成31年度以降に新屋、城之腰、小川地区の3基についても順次整備を進める予定です。



嵩上げ完了 (焼津外港地区)

嵩上げ前 (城之腰地区)

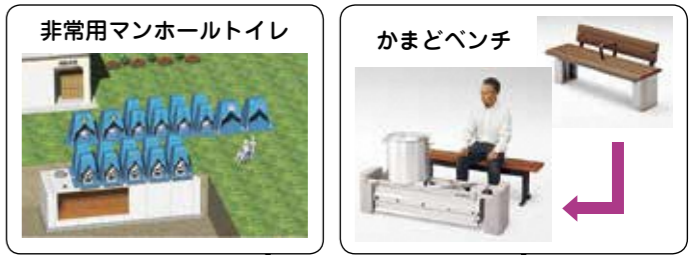
石津西公園(みなく〜る)内に 非常用マンホールトイレ、 かまどベンチを設置

問合せ 公園・地籍課 TEL:626-2165 FAX:626-2190

石津西公園は、市内最大の地区公園として、平成31年度の完成に向けて整備を進めています。公園内には防災備蓄倉庫や飲料用耐震性貯水槽(100t)などの防災施設が整備されていますが、平成30年度は新たに非常用マンホールトイレと、かまどベンチを設置しました。

非常用マンホールトイレは、地下にコンクリート製の便槽を埋設し、災害時はマンホールを開け、仮設トイレを設置して使用します。1万人の避難者が3日間滞在できる容量を確保しています。

かまどベンチは、普段はベンチとして利用し、災害時には「かまど」として活用します。



(仮称)大井川防災広場整備事業

問合せ 公園・地籍課 TEL:626-2165 FAX:626-2190

事業概要

(仮称)大井川防災広場は、静岡県第4次地震被害想定での津波浸水想定区域の外に位置しており、大井川庁舎、航空自衛隊静浜基地など公共施設と連携し、避難、救援物資移送等を行うことができる拠点となります。

平常時は、スポーツやレクリエーション等、多目的に利用できる広場として、また、災害時には被災から復旧・復興時までの時間経過を踏まえ、各ステージで防災機能が発揮される、防災上の重要拠点として整備を進めています。

今後の工事予定

平成29年度まで 防災広場周辺の水路整備、防災広場の整備、敷地造成
平成30年度から 防災広場の施設整備
※整備が完成したところから順次開放していく予定です。

